

令和4年度 学校自己評価表（前期）



【校訓】 敬愛 【学校教育目標】 みんなで伸びる～夢や志を持ち、可能性に挑戦し、主体的に人生を切り拓く生徒の育成～ 【ミッション】 地域に信頼され、地域に貢献する学校

【ビジョン】 ○学校:いのち輝く学校 学校経営の3本柱 ①授業を大切に作る学校 ②明るく元気な学校 ③組織的な学校

○生徒:自ら考え行動する生徒 <<賢く>>知的好奇心にあふれ、学ぶ喜びを実感する生徒 <<強く>>夢や志を持ち、粘り強く努力する生徒 <<正しく>>「時を守り」「場を清め」「礼を正す」礼節のある生徒

○教職員:主体的に学び続ける教職員 <<工夫>>学ぶ喜びを実感できる授業を常に工夫改善し実践する教師 <<信頼>>生徒の心に寄り添い、生徒や保護者の信頼に応えられる教師 <<協働>>組織の一員として協働し、責任と自覚を持つ教師



中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための取組	担当部	評価方法・指標 (アンケートは肯定的評価)	目標値	達成値	達成度	中間評価	改善策
↳主体的に学び合う授業づくり ↳授業を大切にする学校	生徒が主体的に学び合い、深い学びにつながる授業づくりを通して、めざす資質・能力を育成する。	①「わかった」「できた」という実感をもたせられるよう、日々の授業を工夫する。 ・本時のねらいと振り返りに整合性をもたせ、生徒がねらいに達成するように手立てや工夫を行う。 ・ICT機器を効果的に活用し、生徒の学ぶ意欲を高める。 ○生徒が主体的に学ぶ授業づくりを推進する。 ・授業における「かかわりあい」を充実させ、生徒が意見を述べたり、説明したりする場を設定し、相手に伝える楽しさを実感できるようにする。 ○家庭学習の習慣化と定着の取組を継続的に行う。 ・「毎日の生活・学習ノート」の提出の徹底を図り、定着させる。 ・自習学習等試験週間の取組や、生活ノートの週末の自主学習課題を活用し、家庭学習の意欲が高まるような工夫をする。	研究・教務・学年	①学校評価アンケート(生徒)「授業がわかりやすい」85%	85	82.9	97.5	4	①「授業がわかりやすい」(目標値85、達成値82.8)生徒に「わかった」「できた」という実感をもたせられるよう日々の授業を工夫する。わからなかったことも教員に質問できるよう、リフレクションシートを活用する。 ②「授業で『めあて』に対しての『振り返り』をしている」(目標値85、達成値87.5)授業の際、めあてを示し、振り返りをする事は定着している。振り返りの質をあげていけるよう、リフレクションシートの工夫をしていく。 ③「生徒が意欲的に取り組めるようにタブレット等のICT機器を活用した」(目標値80、達成値50)昨年度からタブレット端末を活用しているが、タブレットの活用ルール等が徹底させられていないため、日常的に使用することができていない。2学期はタブレット活用のルールを再確認させるポスターを作成し、生徒に周知している。また、効果的に活用できるようにICTに関わる研修をしていく。 ④「授業では、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んだ」(目標値80、達成値84.4)本年度は研究主題を「本質的な問いにせまる課題を主体的に解決しようとする生徒の育成」とし、特に総合的な学習の時間が探究的な学習となるよう取り組んでいる。各教科でも主体的に学習に取り組む態度を育成するため、課題の設定等を工夫している。今後も授業研究等で教員の授業力を向上していくとともに、生徒の取組の質をあげるようにしていく。 ⑤「根拠や理由を明確にして説明する」(目標値80、達成値66.8)教員は意識して根拠や理由を問うようにしているが、文を書くことが苦手な生徒や知識がないと答えられない問題も多く、自信がなくて書けない生徒もいる。書く時間を確保したり、ペアやグループでの交流をしたりする中で書かせる指導をする。また、生徒が根拠や理由を明確に説明できた際、肯定的評価を行い、全体への周知を行う。 ⑥「『大竹授業スタイル』を導入し、少人数やペアの活用をしている」(目標値90、達成値100)昨年度まではコロナ禍でペアの学習等をストップしていた傾向もあるが、今年度は気を付けながらも本来の学習スタイルに戻している。教員は意識してペアや少人数の活動を取り入れている。生徒もペアや少人数での活動はわかりやすいと答えているので、引き続き意識して取り入れていく。 ⑦毎日の生活ノートの提出(目標値85、達成値85)期間を設けて提出率をグラフで示したり、担任の声かけにより、提出率は上がっているが、生活ノートを毎日継続して活用することに課題が見られる生徒も固定化している。生活ノートが個々の力につながるよう、よりよい自主学習をしている生徒のノートを掲示する等意識を高める。 ⑧試験期間中の家庭学習時間(平日3時間休日5時間)(目標値70、達成値53)テスト計画表に学習時間の累計が色塗りができる場所を追加し、自分の学習時間が視覚的にわかるようにする。試験終了後、目標時間達成者を学年掲示板に掲示し、学習時間に対する意欲を高める。
				②学校評価アンケート(生徒)「授業で『めあて』に対しての『振り返り』をしている」85%	85	87.5	103	5	
				③(教員)「生徒が意欲的に取り組めるようにタブレット等のICT機器を活用した」80%	80	50	62.5	3	
				④学校評価アンケート(生徒)「授業では、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んだ」80%	80	84.3	105	5	
				⑤学校評価アンケート(生徒)「根拠や理由を明確にして説明する」80%	80	66.8	83.5	4	
				⑥(教員)「『大竹授業スタイル』を導入し、少人数やペアの活用をしている」90%	90	100	111	5	
				⑦毎日の生活・学習ノートの提出率85%	85	85	100	5	
				⑧試験期間中の家庭学習時間(中間30時間、期末35時間)達成70%	70	53	75.7	3	
↳支持的風土のある学校づくり ↳明るく元気な学校	「生命尊重」基盤とした安全・安心な学校づくりを通して、仲間と協働し、自ら考え行動できる生徒を育成する。	④生徒会活動や特別活動を活性化させるとともに、道徳教育の充実を図り、規範の意識や自己有用感を育成する。 ○「一丸あいさつ」「やりきり清掃+α」「ユニティカップ」など、自治力を育てる生徒会活動の更なる充実と継承を図る。 ○教育相談(ディスカバリーウィーク)を学期に1回、大竹市いじめアンケートを適切な時期に年3回実施し、生徒理解に努め、不登校の未然防止を図る。 ○生徒指導対策連絡会で、不登校生徒の情報共有を行い、学級担任、学年教員などで不登校生徒とのつながりを作る。	生徒指導・学年	⑨学校評価アンケート(生徒)「行事や学級活動に一生懸命参加して充実感を感じている」の肯定的評価が90%以上	90	82.9	92.1	4	⑨ ユニティに対して、教員間の温度差があるので、担任をはじめとする全教職員がしっかり声をかけて盛り上げると同時に、目的意識を持って取り組ませる。また、文化祭等の行事にしっかり取組ませ、達成感を味わわせるようにする。今年度も全校生徒が体育館に集まるための集会を持っておらず他学年の様子等も分かっていないので、生徒朝会や学校朝会を体育館で行い、生徒同士の関わりを深めていく。 ⑩ 1年生が一番高く3年生が一番低くなるのは、先輩から褒められることがなくなるためと思われる。また、3年生は教員がしっかり褒めることで、数値を上げていかなければならない。 ⑪ 肯定的な評価は、全学年90%を超えているので、教員がさらに肯定的評価をすることで、「よくあてはまる」と自信を持って答えられる生徒を増やす。 ⑫ まずは、教員が廊下等で生徒に対してさわやかなあいさつをし、シールを生徒に渡すことで、生徒たちに挨拶の意識づけをさせる。また、授業の「始まるの挨拶」と「終わりの挨拶」を大切に、できていないクラスに対しては、やり直しをさせる。そして、挨拶に対してその都度評価を返すようにする。 ⑬ ハートプロジェクトや道徳の授業、避難訓練等の行事の時に、「命の大切さ」について、教員が自分の言葉で話をしていく。 ⑭ 出席率の上がっている生徒や変化の少ない生徒に関しては、更に声をかけを続け、学校生活に目標を持たせる。出席率が下がっている生徒に関しては、保護者連携を密にし、原因を究明し、改善できるように生徒指導対策委員会等で協議し、全教職員で協力して取り組んでいく。
				⑩学校評価アンケート(生徒)「自分は学校で、先生や先輩・友だち・後輩からほめられることがある」の肯定的評価が 80%以上	80	70	87.5	4	
				⑪学校評価アンケート(生徒)「私は掃除を頑張っている」の肯定的評価(よくあてはまるのみ)が80%以上	80	70.7	88.4	4	
				⑫学校評価アンケート(生徒)「私は、あいさつがしっかりできる」の肯定的評価(よくあてはまるのみ)が70%以上	70	43.9	62.7	3	
				⑬学校評価アンケート(生徒)「生命尊重の取組や道徳の授業、避難訓練、犯罪防止教室等で命の大切さを学んでいる」の肯定的評価が95%以上	95	94.3	99.3	4	
				⑭ピックアップ生徒15名の中で8名以上の生徒の出席率を上げる。	8	8	100	5	

<p>く 良 好 組 な 織 人 的 間 な 関 学 係 校 づ く り く</p>	<p>小中一貫教育(隣接型)を推進するとともに、地域とともにある「チーム大竹中」を確立させる。</p>	<p>⑥ホワイト大竹中の見直しを図り、主任の機能化と学校運営への参画を推進し、支え合い認め合う教職員集団を形成する。</p> <p>⑦合同公開研究会(授業研)を継続し、9年間で育成する資質・能力を見通した学びをつなぐ教育活動を実践する。</p> <p>⑧保護者、地域、関係諸機関との連携を強化し、ネットワークを構築し、情報の共有化を図る。</p>	<p>○校務運営会を時間割に位置付け、定例化し、各分掌や学年からの議題や提案について、焦点化した協議を行い、時間設定を明確にした計画的、効率的な運営を図る。</p> <p>○年間、月間、週間のスケジュール調整・管理を徹底し、分掌部会、学年会を月に一回は実施する。分掌部会、学年会を月予定に明確に位置づけ、計画的に見直しをもって、円滑に業務を遂行する態勢を構築する。</p> <p>○各分掌や学年で分担した業務について、分掌会や学年会で協議を行い、主任・主事が業務内容の進行状況の管理及び連携を行い、学期ごとに自己評価して成果と課題を整理する。</p> <p>○主任・主事等のベテラン教員を中心としたコーチングによるOJTを進めるとともに、同僚との協働を大切にす職場風土を醸成し、誇りが持てる大竹中職員文化を創造する。</p> <p>○分掌・学年・教科等のデータを系統的に網羅した「大竹中データボックス」をさらに整備し、業務の効率化を図る。また、ホワイト大竹中の見直しを意識してスクラップアンドビルドを重点課題として、校内の取組や業務の優先順位付け、見直しを図る。</p>	<p>全体</p>	<p>⑮学校自己評価アンケート(保護者)「大竹中学校は、教職員が協力し合って学校や学年の取組を進めている。」85%</p>	85	80.1	94.2	4	<p>⑮「大竹中学校は、教職員が協力し合って学校や学年の取組を進めている。」(目標値85、達成値80.1) R3前期75.9→R4後期77.3→R4前期80.1で改善の傾向にあるが、目標値を5%下回った。体育祭の時、悪天候の中、教職員がグラウンドを整備する姿を見て、子供のために頑張っていることに感謝して下さった保護者もおられたが、「協力し合っている」と実感してもらった場面がなかなか持てなかった。</p> <p>⑯「PDCAを意識し、組織で取組の改善を図っている。」(目標値90、達成値76.2) R3前期85.7→R3後期90.5→R4前期76.2で、昨年度は後期に改善が図れたが、その状況を維持することができなかった。昨年度後期で数値が伸びて、安心したこともあるが、若い教員が増え、PDCAサイクルへの意識が十分持てていない。</p> <p>⑰「大竹中学校は働きやすい職場だと思う。」(目標値100、達成値90.5) R3前期76.2→R3後期85.7→R4前期90.5で、昨年度に比べると数値は伸びているが、100%には至らなかった。一部の教員が負担感を感じており、そこが働きにくい要因となっている。</p> <p>⑱「子どもと向き合う時間が確保されている。」(目標値85、達成値80) R3前期85.7→R3後期85.7→R4前期80.0で昨年度を下回り、目標値にも到達しなかった。コロナ禍が続く中、いろいろなことを実施する方向で取り組むようになり、なおかつ、制限もあることから、企画や準備に時間がかかっている。</p> <p>⑲「スクラップアンドビルドを行っている。」(目標値85、達成値619) R3前期66.7→R3後期71.4→R4前期61.9で、昨年度は後期で改善が図れたが、今回は昨年度前期を下回る結果となってしまった。⑳でも述べたように、いろいろなことが実施される方向になったため、今までよりも取り組みなければならぬことが増え、負担が増えたと感じるが多かったと思われる。</p> <p>★総合指標</p> <p>②「学校教育に満足している保護者の割合」(目標値90%、達成値82.3%) R3前期82.1%→R3後期「84.3%→R4前期82.3であった。昨年度、満足度が下がり、改善に努めたが、昨年度前期と変わらなかった。満足度が低い学年があり、教員は丁寧に対応したが、何らかの不満を感じさせ、それにきちんと対応できなかったことを反省したい。</p> <p>【2学期に向けて】</p> <p>(1)文化祭で、保護者に参観してもらう場を設け、生徒の頑張っている姿や教職員の取り組む姿勢を間近で見ていただく。また学校へ行く週間やフリー参観も設定し、できるだけたくさんの保護者に参加していただけるよう、参加を呼びかける。…⑮</p> <p>(2)管理職や主任が、若手教員を指導し、PDCAサイクルを回しながら職務を遂行する意識を高める。…⑯</p> <p>(3)管理職面談等による教職員の勤務状況の把握 管理職は、教職員の勤務状況を把握した上で、必要に応じて面談を行い、業務が集中していないか、負担が生じていないかを確認する。一人が負担を抱えないよう、学校全体でフォローしていく体制を整える。…⑰</p> <p>(4)行事の効率的な取り組み方についての協議 行事は生徒が成長する重要な機会であるが、過度に時間を取られたり、教員に負担がかかったりしないように、効率よく取り組める方法について、校務運営会議や学年会、分掌会で協議する。…⑱⑲</p> <p>(5)生徒や保護者の声には真摯に耳を傾け、誠実に対応し、教員が変わろうとしていることを実際に行動に表して示す。…総合指標②</p> <p>(6)学校評価の結果を分掌会や学年会で分析し、成果と課題を整理して、改善策を協議し、それを全教職員で共有する。また、個人でも学級経営や授業の改善を図っていく。</p>
			<p>⑯学校自己評価アンケート(教職員)「PDCAを意識し、組織で取組の改善を図っている。」90%</p>		90	76.2	84.7	4		
			<p>⑰学校自己評価アンケート(教職員)「大竹中学校は働きやすい職場だと思う。」100%</p>		100	90.5	90.5	4		
			<p>⑱学校自己評価アンケート(教職員)「子どもと向き合う時間が確保されている」85%</p>		85	80	94.1	4		
			<p>⑲学校自己評価アンケート(教職員)「スクラップアンドビルドを行っている」85%</p>		85	61.9	72.8	3		
			<p>⑲学校自己評価アンケート(教職員)「スクラップアンドビルドを行っている」85%</p>		85	61.9	72.8	3		
<p>総合指標(3力年)</p> <p>①学校生活に満足している生徒の割合 90% (達成値 79.3% 達成度 88.1%)</p> <p>②学校教育に満足している保護者の割合 90% (達成値 82.3% 達成度 91.4%)</p>										

アンケート調査 … A:よくあてはまる B:どちらかというあてはまる C:どちらかというあてはまらない D:あてはまらない

数値目標等に対する達成度<肯定的評価の割合> … 5:十分(目標を上回って)達成できている<100%以上> 4:(ほぼ目標どおり)達成できている<80%以上100%未満> 3:概ね達成できている<60%以上80%未満> 2:不十分である<40%以上60%未満> 1:できていない<0%以上40%未満>